



人・夢・技術グループ株式会社

2024年9月期 第2四半期決算説明会

2024年5月16日

イベント概要

[企業名]	人・夢・技術グループ株式会社		
[企業 ID]	9248		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2024 年 9 月期 中間決算説明会		
[決算期]	2024 年度 第 2 四半期通期		
[日程]	2024 年 5 月 16 日(木)		
[ページ数]	35		
[時間]	17:00 - 18:00 (合計 : 60 分、登壇 : 45 分、質疑応答 : 15 分)		
[開催場所]	104-0054 東京都中央区勝どき一丁目 13 番 1 号イヌビル・カチドキ 16 階 インターネット配信		
[会場面積]	132 m ²		
[出席人数]	34 名		
[登壇者]	3 名		
	代表取締役社長	永治 泰司 (以下、永治)	
	専務取締役	井戸 昭典 (以下、井戸)	
	常務取締役	塩釜 浩之 (以下、塩釜)	

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：皆様、大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより人・夢・技術グループ株式会社 2024 年 9 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。本日はご多忙の中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日の会社側出席者をご紹介します。皆様より向かって左側より、代表取締役社長 永治泰司でございます。続きまして、専務取締役 井戸昭典でございます。続きまして、常務取締役 塩釜浩之でございます。

本日の進行でございますが、初めに社長の永治から、そして塩釜、井戸からのご説明のあとに質疑応答とさせていただきます。質疑応答につきましては、会場でご参加の方は挙手をしていただき、司会者より指名させていただきます。Zoomでご参加の方は、コントロールパネルの QA 機能よりテキスト形式にてご入力いただきます。頂戴したご質問を読み上げご回答させていただきます。お時間の関係上、全てのご質問にお答えできない場合もございますことを、あらかじめご了承ください。

本日の説明資料につきましては、会場でご参加の方はお手元に説明会資料、決算短信などのほか、アンケート用紙をお配りしております。Zoomでご参加の方は、画面共有する資料のほか、弊社ホームページの決算説明会ページに掲載した資料をご覧いただくこともできます。また、ウェビナー終了後はアンケート画面に移ります。アンケートは今後の IR 活動の参考とさせていただきますので、ぜひともご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、Zoomでご参加の方におかれましては、チャット機能は使えませんので、何かお困りごとがございましたら QA 機能にてお知らせください。

本日の説明会の終了予定時刻は 18 時となっております。

それでは、説明に移らせていただきます。永治社長、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



～ご挨拶～ 代表取締役社長 永治泰司

2024年9月期第2四半期の当社グループ概況

■ 防災・減災業務

- ・ 能登半島地震を受けて防災・減災業務の重要性の再認識し、今後も迅速かつ効率的な対応を実施

■ 上半期の業績と下半期の見込

- ・ 上期の売上は、前期の受注遅れが影響し前期並みで推移
- ・ 今期に入り構造、道路交通および地盤調査の受注が回復。足元の受注は活況であり、下期の売上に寄与する見込み

■ サステナビリティ経営の推進

- ・ 気候変動対応…CDPで「B-」評価、サステナビリティ委員会で取組方針の検討
- ・ 人的資本の最大化に向けて…技術士の増員、処遇改善、人材育成の強化
- ・ 健康経営の推進…今期より健康支援センター部門を設立、DE&I・健康セミナーを初開催

■ 新規事業の進捗

- ・ 量子コンピュータおよび空飛ぶクルマなどの事業推進



2

永治：それでは、皆さんこんにちは。今日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私からは現在の第3期中間決算状況について、概況をご報告させていただきます。数値的なところにつきましては、私の後に塩釜から説明させていただきます。

皆さんご承知のように、今年の1月、正月早々に、能登半島地震により大変な被害が出て、まだまだ本格的な復旧には至っていないという状況にあります。弊社グループは、防災・減災という分野には力を入れており、国土強靱化それから地域創生というこの2本の大きな目標に向かって事業を進めているところでございますが、防災・減災の一部として能登半島地震についても即座に対応しております。

われわれグループでは、昨年、防災対応マニュアルをきちんと作りまして、それに基づいて即座に対応するという体制ができておりましたので、自治体からの要請があるなしに関わらず、対応しております。

それから上半期の業績、下半期の業績見込みになりますけれども、上半期の売上は、後ほど数字的にはご説明いたしますが、前期に受注の遅れというのがありました。これはわれわれのグループの

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



一番大きな顧客である、国土交通省および地方自治体の発注時期が、必ずしも一定していない関係で、若干遅れたということから、前期の受注が少し不足した背景になります。

従いまして、仕事は受注より半年程ずれて完了していきますので、売上が少し伸び悩んでいるように見えますが、上半期の受注は大変好調でございます。受注は、下半期に売上として計上していくこととなりますので、通年では予定どおりの結果になるだろうと、現在は見込んでおります。

それから昨今、大変重要な課題になっておりますサステナビリティ経営についてです。これも弊社グループは数年前から積極的に取り組んでいるところでございます。気候変動対応では国際的な基準に従って回答依頼が来る CDP 質問書に対して回答しています。一昨年前の回答結果は D-であったのが、昨年の回答に対しては B-評価をいただきました。これもサステナビリティ委員会を立ち上げ、グループ全体で脱炭素化に向かって取り組んでいることを高く評価いただけたと思っております。B-評価は概ね良い評価であると思っております、継続して対応していきたいと考えております。

さらに、われわれの業種は、やはり人が資本ということは変わりません。もちろん DX やロボット化による省力化、効率化を図ってはいますが、それ以上にそれをコントロールする人の役割が大変重要でございます。そういう意味で、働きやすい職場環境を継続的に整えていく必要があると考えています。

特に技術の部分においては、その技術を習得するまでに時間が掛かります。さらに技術の進歩が加わりますから、継続的な教育が大変重要になります。同時に、働いている社員の処遇改善も重要です。今申し上げましたように、数年掛けてやっと一人前になりかけている社員が、そのまま会社に定着して活躍してくれるよう工夫していくこともまた、経営上重要な課題だと考えております。

従いまして、その下に書いてある健康経営もその一環です。フィジカルあるいはメンタルの両面から、社員が健康で楽しく明るく未来に向かって働ける環境をつくるということで、今期から健康支援センターを設置しました。そこには、現在、保健師に加えて看護師免許を持つ人材を 2 名配置しております。グループの全社員に対して相談窓口にもなりますし、もちろん定期的な健康診断の結果を統計的に調査してまいりますので、今後、弊社グループとして必要な対応をとってまいります。

また、今のところ、特に国内においては公共事業が弊社グループの主力になっています。皆様も既にご承知のとおり、国の予算としては概ね横ばいで推移しておりますが、これもどこまで横ばいの状態で安定的な発注になるかは、この先数年は問題ないと思っておりますが、不透明なところがございます。そのような状況から、公共事業一辺倒ではない新規事業を立ち上げているわけがございます。新規事業は全般に順調に立ち上がっておりますが、中でも量子コンピュータの分野は、なかなか

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



か一般の方には馴染みのない分野、むしろ難しくて分からないというような一般の方々の声が聞こえそうな分野になりますが、実際には量子コンピュータの中身を一般の方にご理解いただく必要はございません。それよりも例えばわれわれの得意な交通分野において、最短経路問題などを量子アニーリングという技術で大変効率的に高速度で処理するために活用できます。また、例えば空飛ぶクルマですが、これから空飛ぶクルマがあちこち飛び回る、あるいは空飛ぶクルマなどをコントロールする。それも独自性が高く立体であるので3次元でコントロールをする必要があります。そういった処理に非常に長けているのが量子コンピュータの世界でございます。

そういう意味で、既にデータセンターを立ち上げて、一般の方に活用していただける体制も整えたり、またこういう技術に着目して技術実験などを考えてらっしゃる自治体さんも大変多くいらっしゃいます。

弊社グループの将来を公共事業だけに頼らない形に持っていこうということで、新規事業についてもきちんに対応してまいります。以前から、この中計期間は足固めと申し上げておりますけれども、その足固めも順調に進んでいると私は判断しているところでございます。

ここからはその成果となる決算状況について、塩釜からご説明させていただきます。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



連結損益計算書サマリー

受注高、売上、利益ともに通期計画に対して順調に進捗

(百万円)

	2023年9月期 中間実績	2024年9月期 中間実績	対前期 同四半期 増減率	通期予想	対前期 増減率
受注高	15,626	18,715	19.8%	43,500	11.8%
売上高	21,640	21,706	0.3%	43,000	8.0%
営業利益	2,975	2,674	△10.1%	2,900	1.4%
経常利益	3,099	2,694	△13.0%	2,910	△9.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,026	1,659	△18.1%	1,700	41.2%

■ 受注高について

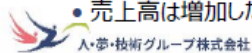
- 国土交通省、官公庁受注を軸に堅調、前年同四半期を大きく上回って推移

■ 売上高について

- 受注高の堅調な進捗により、前年同四半期を上回って推移

■ 営業利益、経常利益について

- 売上高は増加したものの、技術者の増員、新事業領域拡大に向けての研究開発投資の実施により減少



3

塩釜：では、それでは私、塩釜のほうから決算関連について報告させていただきます。

まず、昨日開示させていただきました決算短信に関する報告でございます。24年9月期の中間実績でございます。結論としては受注高、売上高、利益とも通期計画に対して順調に進捗していると考えております。

まず受注高でございます。187億でございます。これは、前期の中間期に対してプラス30億、20%の増でございます。非常に残受注を抱えており、今後、売上に繋がってくるのかなと見ております。

次に売上高、217億600万、前期の同時期が216億、プラス0.3%であり、ほぼ横ばいでございます。これは先ほど永治からも説明がありましたとおり、発注が遅れた影響によるものでございます。ただし、受注も順調に進んできている状況ですので、今後、積み重なっていくものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



6

営業利益が 26.7 億、前期の同時期が 29.75 億、マイナス 10%でございます。これは前期から、いろんな人的投資、事業投資を行っている関係もあり、現中計期間(2023 年 9 月期～2025 年 9 月期)に関しましては若干マイナスで推移していくという想定の下での数値でございます。

営業利益増減要因の分析

営業利益は、先行投資により対前年比で10.1%の減少



■営業利益増減要因

▶ 増加要因

- ・売上高の増加、戦略的 事業投資(研究開発投資) 実施時期の下期へのズレ込みなど

▶ 減少要因

- ・人的・組織体制強化投資として、主に、グループITインフラ整備、積極的な人材採用の進捗、給与水準の引き上げにより減少



4

先ほどの営業利益について、もう少し増減要因を説明させていただきます。この左の 29.75 億、これ前期の中間時の実績に対しまして、増加要因が売上高の増加と戦略的 事業投資の下期へのずれとというのがありました。グラフ内のピンク色は、若干売上が伸びたのに対してプラスとなる、上乘せ分。

もう一つ、この戦略的 事業投資、これ一過性と書いていますけれども、IT 投資など本来この上期で消化すべきものが実行されるタイミングがあります。その辺りの消化の一部が下期にずれたことによって、結果的に費用として使わなかったことによりプラスであったということになります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



あと、グラフ内の青は、マイナス要因となりますが、これは原価率が若干悪くなったということでございます。まず採用を増やしていることや新しい組織を作ったことからマイナス 1.35 億。詳細はまたあとで触れます。

それと、従来どおりの人的組織体制強化投資で 2.3 億。これは例えば政府の要請で 3%の賃上げなども前期から行っております。新しい事業への投資や研究開発を含めて順調に進んでいるということです。それが前期はマイナスとして計上されますので、トータルで差し引きして、26.74 億ということでございます。

セグメント別の実績

主力のコンサルタント事業は、好調な受注環境により下期での増収を見込む



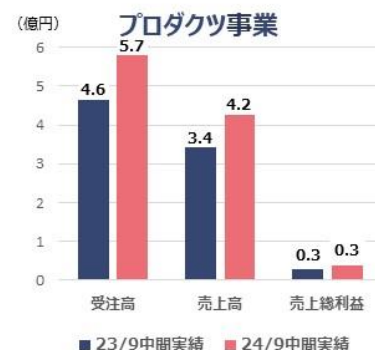
■受注高は大幅に増加

- 受注高は、主に国土交通省、官公庁の発注増加により大きく増加
- 売上高及び売上総利益は、同水準で推移



■売上高は堅調に推移

- 受注高は、前期の大型案件受注の剥落の影響により減少
- 売上高及び売上総利益は、堅調に推移



■商品拡充などにより、増収

- コンクリート用夜間反射塗料、バイオグリーンシールドなどのオリジナル商品を拡充し、受注高、売上高ともに順調に推移



5

これはセグメント別の実績となります。主力のコンサル事業について、この段階では売上、粗利とも横ばいなんですけど、先ほど冒頭のとおり、やはり受注に関してはコンサル事業で大体 35 億程プラスになり順調に推移しています。

この受注増は、主に基幹事業が寄与していますが、従来の国交省からの受注だけにとどまらず、例えば防衛省であったり、基礎地盤コンサルタンツの場合は洋上風力の海洋調査であったりと、新し

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

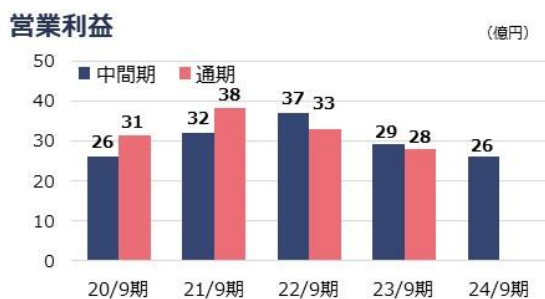
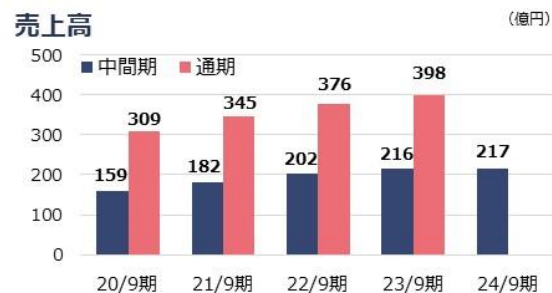
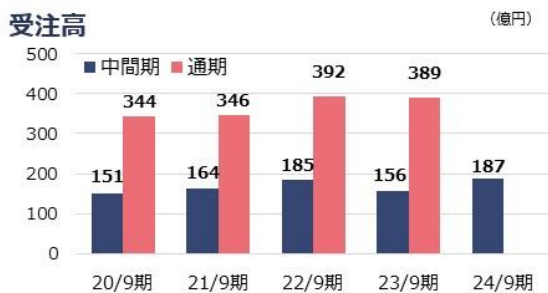


い事業領域を広げていく段階で、新しい顧客や新しい領域からの受注が増えてきているという状況です。それは私達グループにとってはプラスとして見ております。

あとはサービスプロバイダ事業、プロダクツ事業も順調に進んでおります。数字的に目立つところで、サービスプロバイダ事業の受注高について説明をさせていただきます。PPP/PFI 事業では、自分たちが主体となってやっていく事業であるサービスプロバイダー事業も展開しております。前期は、海外のゴミ処理発電事業に関するプラント施設（発電施設）を受注したため、売上高として非常に突出したものがありました。そういう意味で今期は減少しておりますが、それぞれの事業実施のタイミングの違いでこぼこ感が現れているということでございます。

連結業績推移 ～受注高・売上高・利益～

受注高、売上高は堅調に増加、営業利益は先行投資により減少



【ご参考】2020年9月期実績、2021年9月期実績は、株式会社社長大として公表した数値

6

これは、5年分の連結の業績、受注高、売上高、営業利益、最終純利益ということで示しております。青は中間期の実績です。先ほど受注は好調であるとお伝えしましたが、売上はほぼ横ばいで推

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



移しており想定に近いというものです。それから営業利益は、これも若干下がっておりますが、ここは期の計画として元々下がるものとして考えておりますので、中間は計画通りと見ております。それから当期純利益も、この段階では営業利益に呼応してマイナス4億となり16億でございます。

連結業績推移 ～利益率～

売上高は伸長しているものの、積極的な人材採用、給与水準の引き上げなどにより営業利益率は減少、一方、売上総利益率はIT化・DX化の推進等により増加

営業利益率



売上総利益率



【ご参考】2020年9月期実績、2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値

7

これは利益率です。営業利益はピンクが通期で、青が中間期になります。今中期の営業利益率が12.3%となっております。あと売上総利益、粗利益は、前々期から前期にかけては、人的投資などが増加したことから固定費が増えて下がっていますが、今期に関しては若干プラスで進行しています。これは私達、グループを挙げてもう何年も前から取り組んでおります効率化が進んで粗利が少し改善しているという見方でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結貸借対照表の概要

(百万円)

<主な項目>	2023年9月期 実績	2024年9月期 中間実績	増減額	コメント
資産合計	36,241	47,361	11,119	流動資産 ・ 主に一過性の運転資金増加に伴う現金及び預金の増加、年度末の業務完了の集中に伴う受取手形、完成業務未収入金及び契約資産の増加による影響
流動資産	24,186	35,104	10,918	固定資産 ・ 主に新規連結に伴う建物及び構築物の増加による影響
固定資産	12,055	12,256	201	
負債合計	15,543	25,474	9,931	流動負債 ・ 主に一過性の運転資金増加に伴う短期借入金の増加による影響
流動負債	9,530	19,620	10,089	固定負債 ・ 主に長期借入金の返済による影響
固定負債	6,012	5,854	▲158	
純資産合計	20,698	21,886	1,188	・ 主に利益剰余金が増加
株主資本	20,473	21,596	1,122	



8

次はBSです。ここでは主なものを示しております。前期末と今中間期、そしてその差を示しております。

資産合計が111億と非常に大きく増えております。これも一過性です。運転資金増加に伴う現金及び預金の増加、このあとキャッシュ・フローで説明しますが、中間期末に90億円超の短期の借入を行っております。前期も同様に78億ぐらいの借り入れを行いました。受注が順調に増えていく中では、どうしても運転資金の短期的な用立てが必要となるため、それが積み上がったものが資産として計上されて、111億となっております。

それ以外にも完成業務未収入金や契約資産の増加、いわゆる債権も積み上がっております。もう2Q終わりですので、そんなことも含めて資産が大幅に増えております。

次に負債を見ますと、先ほどのとおり短期の借入から93億ほど影響が出ております。その他長期借入金の返済が少しありましたので、マイナスも出ており、トータルとしての99億です。

それから、それらを含めて純資産合計として11億のプラスであったということです。12月の配当金の支払いで約6億マイナス、今中間期で当期純利益を約17億計上した差し引きの数字となって

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

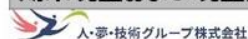


おります。ということで、この辺りも短期借入金を例年どおりといいますか、受注増加に関連したBSの動きがあったということでございます。

連結キャッシュ・フロー表の概要

(百万円)

<主な項目>	2023年9月期 中間実績	2024年9月期 中間実績	コメント
営業キャッシュ・フロー	△4,563	△4,929	
税金等調整前当期純利益	3,099	2,694	
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,791	△7,984	年度末の業務完了の集中に伴う売上債権の増加、未成業務受入金の増加などにより減少
未成業務支出金の増減額 (△は増加)	△98	△138	
未成業務受入金の増減額 (△は減少)	△895	293	
未払消費税等の増減額 (△は減少)	493	140	
法人税等の支払額	△704	△308	
投資キャッシュ・フロー	△2,508	△432	
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,602	-	投資有価証券の取得、貸付による支出等により減少
有形固定資産の取得による支出	△497	△69	
投資有価証券の取得による支出	△116	△101	
貸付けによる支出	△150	△44	
財務キャッシュ・フロー	8,810	8,398	
短期借入れによる収入、支出	7,700	9,300	主に、運転資金増加に伴う短期借入金の一時的な増加、長期借入金の返済により増加
長期借入れによる収入、支出	1,637	△351	
期末現金および現金同等物残高	9,145	10,219	



9

キャッシュ・フローでございます。営業キャッシュ・フローはざっと50億の支出があったということとなります。主なものとして、売上債権の増加の79億というのがあります。年度末業務で事業が先行していますので、建替え分がこれぐらい出てきているのが大きなところですよ。

投資キャッシュ・フローは、今4.3億使っています。主なものが、この投資有価証券取得による約1億、これは以前、公表させていただきましたベンチャー企業のZip Infrastructureというロープウェイとモノレールを組み合わせた新しい交通を提供するベンチャー企業に出資したものです。

あと財務キャッシュ・フローのここは、先ほどのとおり短期的な借入です。一時的にこれだけ上がってきて、返済と合わせてトータルとして83億のキャッシュ・フローがあったということです。最終的に、この第2四半期で残ってるのが102億ということとなります。

サポート

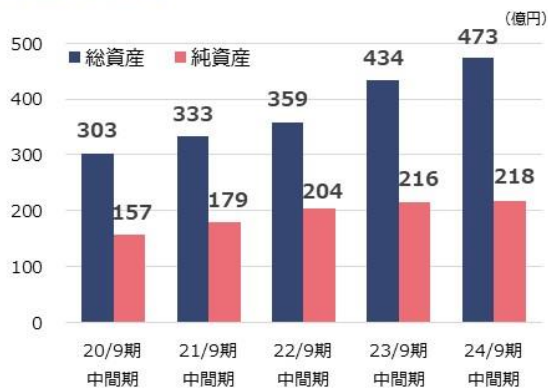
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結財務状況推移 ～自己資本比率～

■ 堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により、総資産・純資産は増加

総資産・純資産



自己資本比率



■ 総資産、純資産の増加について 継続した利益剰余金の計上により、順調に増加

■ 自己資本比率について 利益剰余金が増加する一方、一過性の運転資金増加に伴う短期借入金の増加などにより減少



【ご参考】2020年9月期実績、2021年9月期実績は、株式会社長犬として公表した数値

10

次に、自己資本比率を見ていきます。堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により総資産・純資産は増加しております。この青が総資産、赤が純資産でございます。順調に積み上がってきている状況でございます。

自己資本比率ですね。中間の段階では46%と、50%切っておりますが、通期で見えていきますとおそらく先ほどの短期の借入も3Qの中では返済していきますので、もっと自己資本比率が上がってくるのかなと見ております。

いずれにしても、財務体質は手前みそですけど、グループとしては問題ないところにいると思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結業績予想

第2四半期では、通期業績予想に変更なし

	2023年9月期 通期実績	2024年9月期 通期予想	対前期 増減率	2024年9月期 中間実績	対前期 同四半期 増減率
受注高	38,920	43,500	11.8%	18,715	19.8%
売上高	39,812	43,000	8.0%	21,706	0.3%
営業利益	2,860	2,900	1.4%	2,674	△10.1%
経常利益	3,200	2,910	△9.1%	2,694	△13.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,203	1,700	41.2%	1,659	△18.1%

■受注高、売上高、営業利益について

- **受注高**については、国土交通省・官公庁関連業務を軸に、引き続き堅調に推移する見込
- **売上高**については、第2四半期時点で前年同期と同水準であるが、足元の好調な受注を受けて通期予想に変更なし、増収の見込
- **営業利益**については、人的・組織体制強化投資(技術者の増員、給与水準の引き上げなど)および戦略的事業投資(新事業領域拡大に向けた研究開発など)といった先行投資を行いつつも、好調な受注やIT技術の活用による業務効率化も貢献し、通期予想に変更なし、増益の見込

11

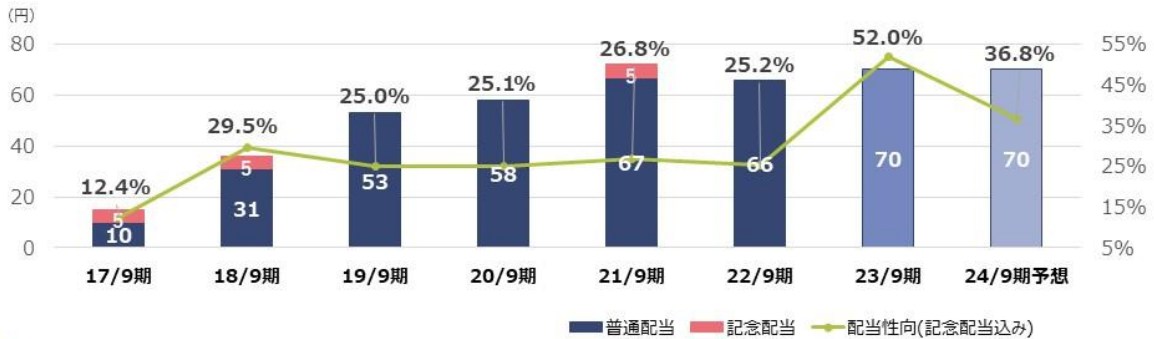
これは24年9月期、今期の着地予想でございます。下にいろいろコメントしておりますけれども、受注高、受注につきましても引き続き堅調に推移していきます。それから売上高についてもそれに呼応して足元の好調な受注を受けて、通期はそれなりに重ねていくでしょう。営業利益につきましては、前期から想定しております、人的投資、事業投資含めて、どんどん将来に向けて使っていく予想どおり推移していく予定ですので、現時点では9月期、最終決算に関しましては、数字でいきますと受注が435億、売上が430億、営業利益29億、経常が29.1億、最終純利益は17億というこの数値に変更は今のところございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元(配当推移)

継続的に安定的な配当を実施する基本方針に基づき、2024年9月期は前期と同水準となる普通配当70円を予定



株主還元

■ 2023年9月期より、

1株当たり配当額60円と配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として、より安定的な配当を行う方針
(長期経営ビジョン最終年となる2031年9月期まで安定的な配当を実施予定)



12

つづいて、株主還元、配当性向についてです。これも公表しているとおり、今期末に 70 円を予定しております。前期に 1 株当たり 60 円もしくは 35%の高い方を目安に配当を行うということで、配当性向を増やす方向に変更させていただきました。その配当性向に沿うと今期の配当は 60 円になりますが、今、株主の皆様への還元って非常に重要だと考えておる中で、前々期、前期の順調な配当を踏襲して、今のところ、今期も 70 円を予定しております。

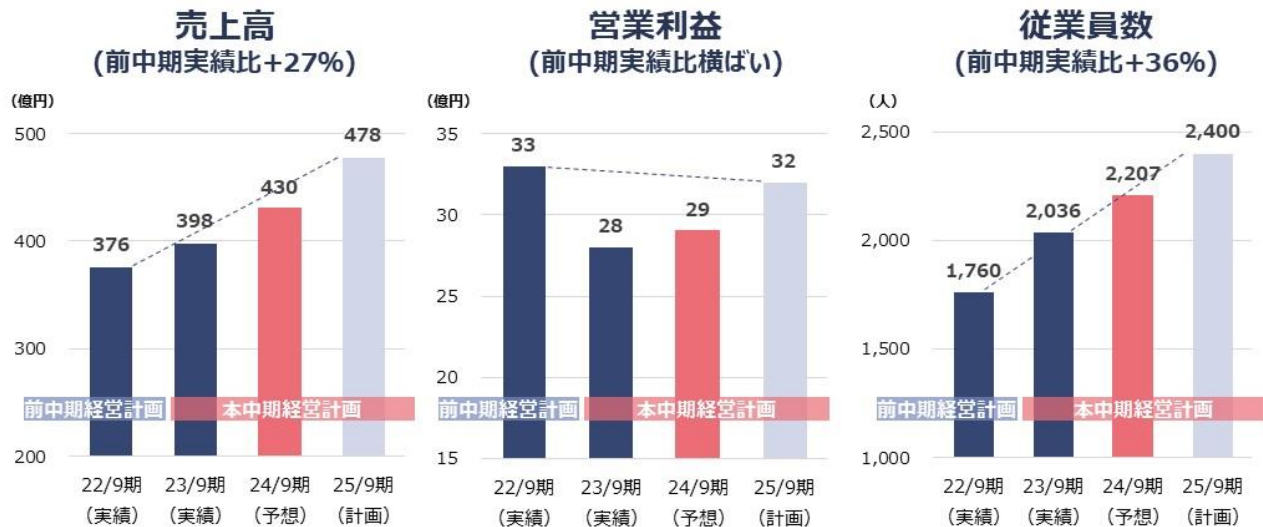
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



中期経営計画「持続成長プラン2025」の経営指標

主な指標と目標値～売上高・営業利益・社員数～



14

次に現在、中期計画のちょうど真ん中の期ですので、それに関して進捗状況をもう少し触れたいと思います。

まず現在、前回第1中計が終わって第2中計のちょうど真ん中にいます。このピンクのところですね。これに向けて今、2Qが終わったところで、先ほどのとおり、今の段階ではグループ全体430億、このまま着地すると見ております。

最終的には来期、中計3年目には478億という数字には、今のところ変更ございません。営業利益も同じく今のところ数字を変えておりません。

それから従業員数も、グループ全体で順調に増えていっております。今ちょうど半期が終わって2,100人ぐらいですので、最終的には来期までに2,400人を目標としています。

やはり私達の事業は人が財産です。今、技術者は売り手市場で、採用はなかなか苦戦していますが、そこは手綱を緩めず、人を採用していくという流れに変更はございません。

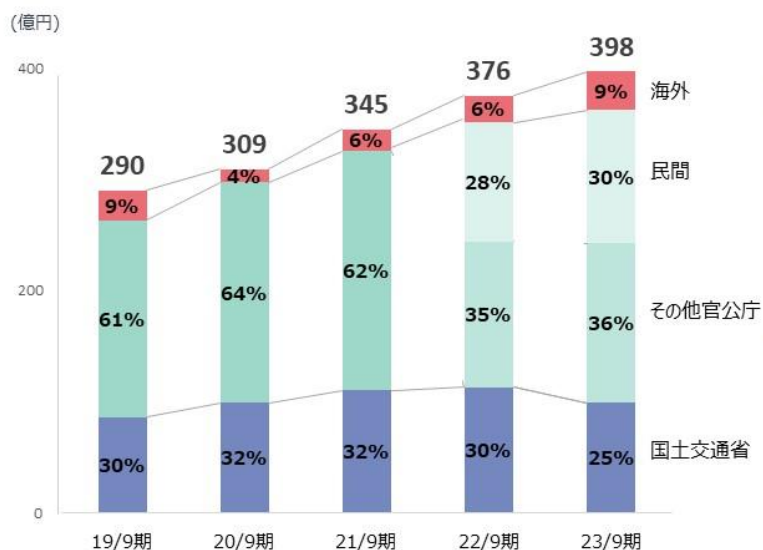
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



人・夢・技術グループ 顧客別売上高

顧客別売上高(2023年9月期)



※2021年9月期までは「其他官公庁」と「民間」を「其他官公庁・民間」に統一して開示

- 顧客別売上高は、国土交通省、その他官公庁、民間がそれぞれ3割程度、海外が1割程度の売上高比率で推移
- 近年は、国土交通省以外の官公庁や地方自治体にも積極的に展開



15

あとここでは、過去の推移も含めた顧客別の売上です。元々グループ全体での受注先は、やはり国土交通省様が多いのですけれども、今事業の多様化を進めていく中で、相対的に国交省様の割合は減ってきております。

逆に言えば民間、特に基礎地盤コンサルタンツは今、活発に民間事業を展開しておりますし、長大、基礎地盤を含めて其他官庁、特に地方自治体に向けて、これから地域創生というキーワードで、いろんな策を持ちながら、地方自治体へ展開しているということとなります。

今後どんどんこういったことを広めることで、相対的に国交省の割合低くなりますが、それは受注リスクを下げ、多様な事業展開に繋がりますので、この流れを進めてまいります。

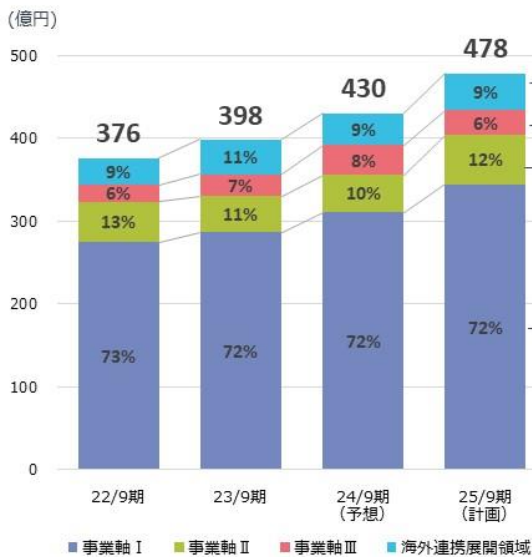
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



人・夢・技術グループ 事業軸別売上高

事業軸別売上高(2023年9月期)



事業軸	事業分野	主な顧客	事業内容
IV	海外連携 新領域	省庁 JICA 海外政府機関	<ul style="list-style-type: none"> 社会基盤インフラの計画・調査・設計（橋梁、道路、鉄道など） インフラ設備の導入・運営（水力発電所等） 地盤調査・地質地表踏査 地質・水質環境調査・地質解析等
III	地域創生	省庁 地方自治体 民間企業	<ul style="list-style-type: none"> 地域、都市開発調査 まちづくり 都市システム化計画 [事業例] 公共施設の運営、デマンド交通システム
II	環境・ 新エネルギー	省庁 地方自治体 民間企業	<ul style="list-style-type: none"> 再生化エネルギー調査・計画設計・施工・管理・運用 洋上風力発電の海底地盤調査 [事業例] 小水力発電・太陽光発電・バイオマス発電・洋上風力発電 環境経営の支援 生物多様性の保護支援
I	国土基盤 整備・保全	国土交通省 地方自治体	<ul style="list-style-type: none"> 社会基盤インフラの計画・調査・設計・施工管理 [事業例] 橋梁・道路交通・港湾河川・鉄道 社会基盤インフラ長寿命化 維持管理コンサルティング 地盤調査・地質地表踏査 地質・水質環境調査・地質解析等 土質地質調査 インフラサービスのICT化 生成AIの活用・DX化

16

これは、事業別の売上ですが、時間の関係もありまして、詳細はまた皆様資料をご覧ください。

一つ言えるのは、この事業軸 I ですね。これは国交省を含めた基幹事業ですが、基本的にはここでしっかり儲けていくといきますので、事業軸 I の事業展開はどんどん進めていきます。

先ほど、例えば防衛省なんかも申し上げましたけれども、そういった防衛省ですとか、今後は例えば環境省であったり、農水省であったり、いろんな省庁への展開を基幹事業としてしっかり捉えております。例えば、公共事業費が長い目で見ると減っていくってことをいわれますけれども、そういうながらも国が発注する業務が減ったとしても私達が展開するエリア、領域はもっともっと広がっていくだろうと考えておりますので、事業軸 I をしっかりやって利益を確保しながら、II、III、海外ということをどんどん展開していくという流れでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



人・夢・技術グループ 事業軸別重点分野と受注関連トピックス

I 国土基盤整備・保全



【重点分野】

- 点検業務の拡大やDXの推進
- 包括的なインフラ維持管理業務への展開
- 災害時における迅速な対応や復旧支援

【受注関連トピックス】

- AIを用いた舗装点検の効率化(長大)
- 特異な場所でドローンを使った法面劣化度評価(基礎地盤C)

II 環境・新エネルギー



【重点分野】

- 自治体や民間のカーボンニュートラル計画の立案や推進支援
- 再生可能エネルギー事業の拡大

【受注関連トピックス】

- 治水機能強化と水力発電の促進の両立「ハイブリッドダム」事業の実現可能性調査・詳細設計業務(長大)

III 地域創生



【重点分野】

- デマンド交通のサービスの拡大と地域展開や自動運転の導入
- 建築設計とまちづくり事業の推進とこれらの技術・ノウハウを活かしたPPP事業の拡大

【受注関連トピックス】

- 地域交通の検討に向けた普及活動や自動運転の実証実験(長大・順風路)

IV 海外連携展開領域



【重点分野】

- 橋梁・鉄道・地盤調査および解析事業の更なる強化
- TODなど新たな事業分野への拡大

【受注関連トピックス】

- 2次元/3次元の高度な地盤解析技術を用いて安全で経済的な地盤設計(基礎地盤C)

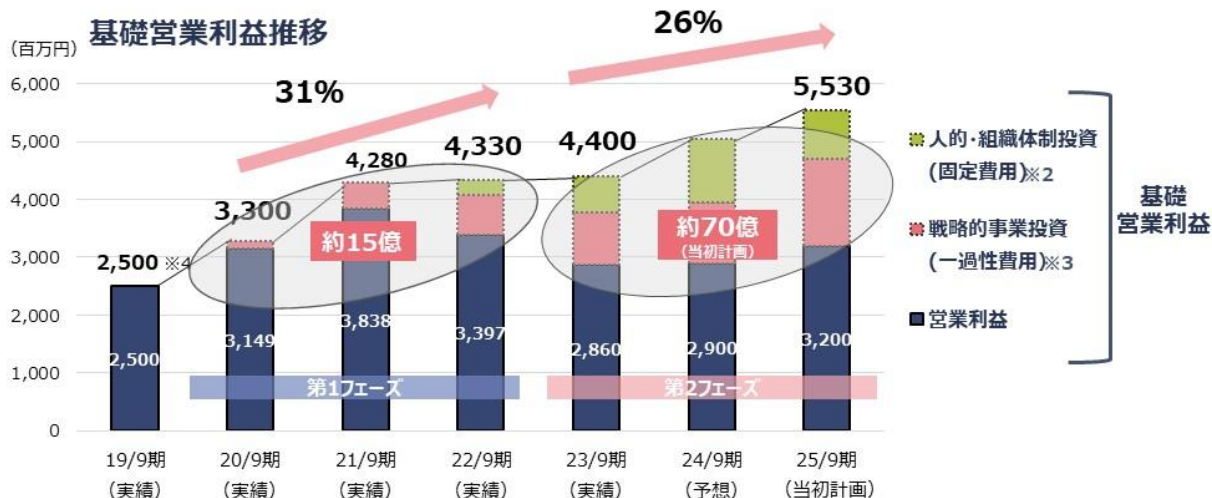
これは、ざっと事業軸Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、それぞれの主な事業を、あらためて示させていただきました。特に事業軸Ⅱは、サービスプロバイダと結構関連し、発電所系ですとか、再エネ分野へ事業拡大していきます。地域創生では今、新しい地域創生を目指しています。先ほど組織のところでお金を使っていくと申し上げましたが、それは、今期、新しい事業部を立ち上げ、地方の事業をどんどん取り込んでいこうとしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

中期経営計画「持続成長プラン2025」の成長投資

長期ビジョン2030の実現に向けて、2023年から3年間の先行投資70億円を計画



- 長期経営ビジョン2030第1フェーズは、3年における売上高成長率CAGRが+9%、基礎営業利益においても順調に増加
- 第2フェーズにおいては、基礎営業利益は増益。営業利益はさらなる事業拡大に向けた人的・組織体制投資、戦略的事業投資の推進により一時的に減少するものの、25/9期から再び増加傾向



※1 2021年9月期以前の実績は、株式会社長大として公表した数値
 ※2 人的・組織体制強化投資：持株会社体制強化、給与賃上げ、グループ全体のITインフラ強化等
 ※3 戦略的事業投資：研究開発費を含めた新事業投資等
 ※4 保証金引き当て金4億円の影響を除く

18

あと、前回にもこのペーパーをお出ししました。元々、私達儲けていく力といいますか、全体的な利益は、多少のこぼこはありますがしっかりと出していこうとしています。その中で人的・組織体制投資であったり、戦略的事業投資であったりを現中期計画の中では増やしていこうという大きな考えです。今、コンサル事業そのものが将来に向かって、あまり過去ほど明るくなく、市場が厳しくなるということに対して、今の段階でやはり新しいとこに手を広げて、どんどん新しい分野の人材を入れてやっていこうということでございます。そこに対してはやはりお金は使わせていただきたいということで、こういった数字を置いております。

その分、その成長が前中計では31%だったんですが、若干成長を緩めてこちらのほうに注力していくというその考えでございます。何卒、この辺りはお理解のほどいただければと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



人・夢・技術グループ 新規事業の進捗

空飛ぶクルマ



- ITS/交通分野・建築分野・環境分野など、建設コンサルタントの技術やノウハウを生かし、離発着場の設計や運行ルールづくり・運営事業などに向けて事業領域を拡大する
- 2024年2月、誘客促進、地域活性化等推進のため、和歌山県・(株)IHI・南海電鉄(株)と連携協定を締結し社会実装を推進

量子コンピュータ



- 量子技術を活用した未来のまちづくり『クオンタムシティ構想』を推進。量子データセンターの運営や量子人材開発など、今後の日本の成長を担う新たな事業へ領域を拡大する
- AI開発や量子計算用サーバーの設置・運用を小スペースで実現する「マイクロデータセンター」を開発、地域に提供を開始

デジタル田園都市



- 政府が推進するデジタル田園都市国家構想の最上位であるType3に選定され北海道更別村でプロジェクトを推進中
- 今期より長大にスマートシティ事業部を立ち上げ、地方におけるスマートシティ事業を展開、今期2億円程度の受注見込

水上都市



- 沿岸部に住む人の安全安心な生活を目指し、浮体構造を活用した新たなまちづくり「水上都市」の実現に取り組む
- 2023年8月、浮体技術と気候変動に関する国際会議「WCFS2023 Japan」を主催
- 浮体式洋上風力発電に関する特許を取得

19

これが、例えばどんな仕事をやってるのかということ。冒頭、永治のほうからも説明がありました、空飛ぶクルマ、量子コンピュータ、デジタル田園都市、水上都市。この辺りは今の日本もしくは世界が抱えているインフラの問題だと思っています。こういったことの多くをいち早く手掛けているのは総合コンサルの中で私達だけかなと思っています。

それぞれ今すぐには足元では事業利益として出てこないかもしれませんが、やがてはおそらく今、日本、世界で覇権争いをしている空クルであったり量子に打って出て行きたいと考えており、水上都市なんかもそうです。

そして1点、このデジタル田園都市構想について、資料にも説明を書いておりますが、今期から新しい事業部を作りました。スマートシティ事業部といいます。こんなところにも人的投資をしておりますが、もう既にここでは今期の売上が例えば2億円ほど見込んでおり、受注も非常に活発です。更別村で先行的に行った事業をベースとして、今は全国展開しているところです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



企業価値向上に向けた人的資本の最適化

有資格者数推移



- 新規の技術士合格者数の増加、ならびに有資格者の中途採用やM&Aの効果により有資格者数は年々増加
- 技術力向上のため、資格取得を推奨
- 資格取得や技術継承のための社内勉強会を積極的に開催

技術士とRCCMと一級建築士の取得者数合計（延べ人数）
 技術士：土木専門技術に関する国家資格
 RCCM：(一社)建設コンサルタンツ協会が提供する土木専門技術に関する民間資格

人的資本の最大化と活用

人材育成の強化

- 年1回以上のキャリア開発を目的とした階層別研修
- スキルアップを目的とした社内勉強会の強化
- 博士課程・大学院進学補助、技術士・資格取得手当の拡充
- 比国人材の活用

処遇改善

- 3年連続、3%以上の給与水準の引き上げ
- 昇格タイミング、管理職登用時期の見直し検討

生産性向上

- グループ全体のITインフラ整備、ネットワーク統合の推進
- 働き方改革を通じて生産性の向上
- 2023年9月期よりエンゲージメントサーベイの実施
- 健康支援センターの設置

健康経営の促進

- ニックスが健康優良企業「銀の認定」に認定
- ピーシーレールウェイコンサルタントが子育てサポート企業「くるみん」に認定
- 健康経営の推進に向けた「DE&I・健康セミナー」を初開催



あとは、資格者、これも長大、基礎地盤とも順調に増えていっております。それ以外にも、人的資本の最大化ということでいろんなことを、社内グループ全体で進めているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針

PBR改善に向けた方針と目標設定

「長期経営ビジョン2030」及び「持続成長プラン2025」の着実な実行による利益創出、株主還元
の強化、また、IR/SRの強化によりPBRの改善を目指す

		中期経営計画 「持続成長プラン2025」	「長期経営ビジョン2030」
①利益創出	基本的な方針	「成長基盤確立に向けた投資」と 「株主還元の強化」	「持続的な成長」を通じた 「株主還元のさらなる拡大」
	連結売上高	478億円	600億円
	連結営業利益	32億円	50億円
	ROE	中長期的に ROE10%程度またはそれ以上の水準を安定的に実現	
②株主還元の強化		<ul style="list-style-type: none"> 2031年9月期までの間、1株当たり配当額60円と、配当性向35%に基づく配当額の高い方を目安として安定的に配当 機動的な自社株買い 	
③IR/SRの強化		<ul style="list-style-type: none"> 当社事業への理解促進 サステナビリティ経営のPR 	

 人・夢・技術グループ株式会社

21

これは、昨年に公表させていただきました資本コスト、効率化による、PBR改善に向けた方針の目標設定で、再掲いたします。事業を中長期的にしっかり利益を出していくことで、ROE10%程度もしくはそれ以上を目指す。その結果、遅れてかもしれませんがPBRがついてくると。PBR1以上を目指していますが、今現在は、残念ながら少し下回っています。けれども、その辺りを改善していくためには、中長期的にしっかり利益を出していきつつ、ROEを高めていきたいと考えております。

駆け足ですが、数値関係説明させていただきました。最後に井戸のほうからこれまで行った事業トピックスについてご説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2023年9月期上半期の主な受注業務

事業軸Ⅰ 国土基盤整備・保全分野	事業軸Ⅱ 環境・新エネルギー分野	事業軸Ⅲ 地域創生
① 「令和6年能登半島地震」の災害復旧支援 ② 特異な場所での地震災害復旧の調査設計 ③④点検業務の効率化・新たな技術の活用による近接目視点検	⑤ 2050年カーボンニュートラルの実現と自然災害の治水機能の両立に向けた「ハイブリッドダム」業務	⑥ 地域交通の検討に向けた普及活動や自動運転の実証実験
事業軸Ⅳ 海外連携展開領域		
⑦ 2次元/3次元の高度な地盤解析技術を用いた安全で経済的な地盤設計		
新事業/IT化・DX推進		
⑧ グループ内の業務効率化や地域全体、社会全体のDX		



23

井戸：それでは、昨年10月からこの3月までの半年間の間に行ってきた主な事業について、ご説明させていただきます。

この中では、先ほど新しい事業につきましては、塩釜の資料の中で4点ほど触れさせていただきましたが、基幹事業につきまして最初に少し説明させていただきたいと思っております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



24

①「令和6年能登半島地震」の災害復旧支援

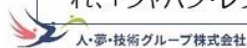


被災地におけるボーリング調査(基礎地盤C)



能登町の避難所に設置したA.Qトイレ(長大)

- 周辺地盤が大きく変状した能登町で、全国からの技術者を結集し地質調査と変状観測を実施。今後は、調査結果をもとに、構造物設計等を実施
- 複合発酵技術による微生物の働きで汚水を浄化し再利用する自己完結型のバイオトイレ『A.Qトイレ』を能登町の避難所に提供。上下水インフラが寸断されても快適なトイレ環境を提供できることなどが評価され、「ジャパン・レジリエンス・アワード」で最優秀賞を受賞



24

基幹となる事業の中でもやはり一番大きいのは、災害への対応、それから防災・減災といった国が推進しております事業への取り組みといえます。その中からいくつか例を挙げますと、これは冒頭、永治からも話ありました、能登半島地震への対応ということで、基礎地盤コンサルタンツでは、ボーリング調査をいち早くやっていたし、それから資料の右側は能登町の避難所に設置したA.Qトイレという循環型バイオトイレですが、3ヶ所に4基のトイレを提供し、皆さんに使っていただいた。このようなソフト面からも災害支援を行っているということでございます。

このA.Qトイレにつきましては、災害時にも活躍しますが、今展開しておりますのは、ゼネコン様に建設現場でも綺麗なトイレを使っていただきたいということ。それと昨今のSDGsの中で、節水対策を考える企業様がいらっしゃいまして、都市施設の中でも使えないかということで、検討を始めておるところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

② 特異な場所での地震災害復旧の調査設計



崩壊した法面



対策施工が完了した法面

断崖絶壁の法面に対する調査設計業務(基礎地盤コンサルタンツ)

- 基礎地盤コンサルタンツでは、2022年3月に発生した福島県沖地震の復旧業務として、灯台の倒壊を防ぐための調査設計業務を担う。崩壊した断崖絶壁の法面に対し、ドローンによる観察や斜めボーリングなどの技術を駆使し、対策施工を設計することで早期完工に貢献した。



25

これも災害復旧で、2022年の福島県沖地震で崩壊した法面に対して、右側の写真が完成したものですけれども、こういった調査設計業務も行っています。

サポート

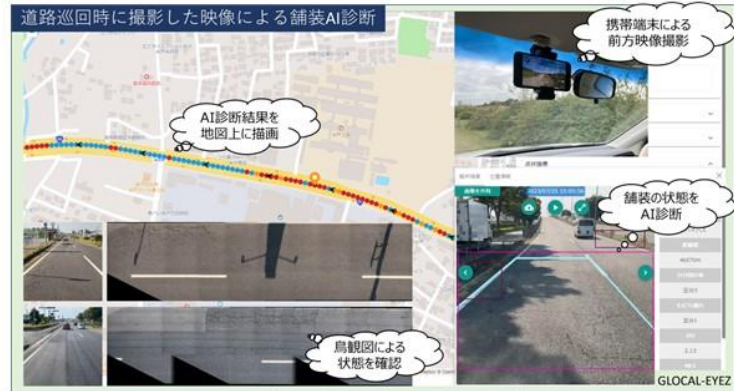
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[事業軸 I 国土基盤整備・保全分野] 基幹事業

③ インフラ老朽化に伴う点検業務の増加とともに、さらなる点検業務の効率化に取り組み建物のライフサイクルコスト(LCC)の縮減に寄与



光を通す常設足場パネル「サン・ステラス」(長大)



AIを用いた舗装点検の効率化(長大)

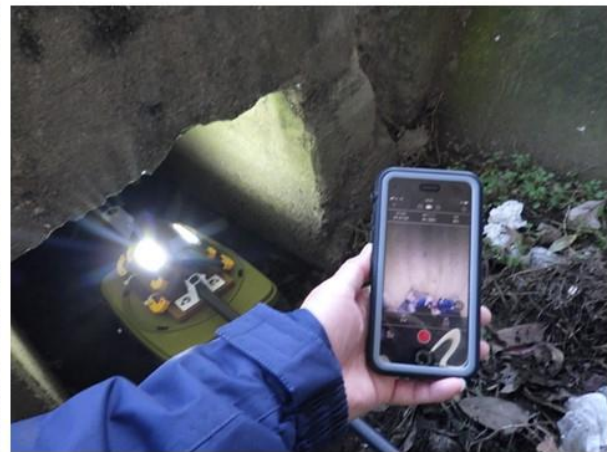
- 点検に伴う交通規制による渋滞を回避する上では常設足場の設置が有効だが、作業足場内が暗いことによる損傷の見逃しが課題であった。このため、光を通す常設足場を共同開発し、点検作業の効率化を図る
- 道路舗装の定期点検結果とAI診断結果を比較し、妥当性を評価。効率的な舗装マネジメントを実現する

[事業軸 I 国土基盤整備・保全分野] 基幹事業

④ 義務付けられる定期点検に際し、新たな技術・ソフトウェアの活用により、近接目視点検に取り組む



大型点検車を用いた橋梁定期点検(PCRW)



360°カメラを活用した構造物内部の点検(長大テック)

- 高性能大型点検車を橋梁点検に採用することで、全ての部材の近接目視点検を実施。今後も直轄国道で一部義務付けられる新技術活用業務の受注を目指す
- 360°カメラを活用し、人が入れない場所の点検を実施。維持管理のための基礎資料の作成も可能となる

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

こちら、インフラの老朽化は非常に進んでおりますので、それへの対応です。点検業務が非常に今、多くなってきておるわけですが、その中にも新しい技術を組み込み、効率化しようということで、取り組んでおるものです。

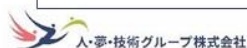
[事業軸Ⅱ 環境・新エネルギー分野] 再生可能エネルギー事業

⑤ 国土交通省の取り組み、2050年カーボンニュートラルの実現と自然災害の治水機能の両立に向けた「ハイブリッドダム」業務へ参入



ハイブリッドダムで使用する水車発電機のイメージ(長大)

- 国土交通省は、2050年カーボンニュートラルに向け、治水機能の強化と水力発電の促進を両立させる「ハイブリッドダム」の取り組みを進める
- 長大では、新たに発生する水力発電工事のための実現可能性調査と詳細設計業務を担当



28

次に、事業軸Ⅱとしてカーボンニュートラルに向けて再生可能エネルギー事業に取り組んでおりますという紹介でございます。これはハイブリッドダムで使用する水車発電機、小水力発電の一部になりますが、そういうものの可能性調査や詳細設計などを行っています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[事業軸Ⅲ 地域創生分野] オンデマンド交通事業

⑥ 地域交通の検討に向けた普及活動や自動運転の実証実験を行う



オンデマンド交通に関する住民学習会(順風路)



宇陀市で“奈良県内初”の公道での自動運転実証実験を実施(長大・順風路)

- 順風路では地域の公共交通に関する住民学習会に招待され講演を行う。開発したオンデマンド交通システム「コンビニクル」の仕組みや地方都市での普及状況、ライドシェアなど他の地域交通システムとの違いなどについて紹介、理解促進に貢献した
- アイサンテクノロジー株式会社、株式会社ティアフォー、損害保険ジャパン株式会社、KDDI株式会社、及び、株式会社デンソーと協力し、奈良県で自動運転の実証実験を行い、今後の実験計画を策定



29

こちらは従来からご紹介しておりますけれども、順風路が取り組んでおるオンデマンド交通事業です。今後の高齢化社会というものを考えていきますと、ドローンを使って物を届けることも必要ですが、体を動かして元気に暮らしていただきたいということを考えますと、やはり移動手段を提供してあげるべきであろうということで、長年取り組んでいる事業です。高齢の方々も病院に行ける、それから買い物に行けるということで、好評を得ておるものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[事業軸Ⅳ 海外連携展開領域]

⑦ 海外でも高い技術力を発揮し、現地での課題解決に貢献



シンガポール地下鉄クロスアイランド線仮設設計業務(基礎地盤コンサルタンツ)



ベトナム国・サイゴン川に架かる歩道橋建設計画の事業化調査(長大)

- シンガポールの仮設設計業務において、工区内のシールドトンネルが森林の下を通るため、工事による森林の影響を最小限に抑える高い技術力が求められる中、2次元/3次元の高度な地盤解析技術を用いて安全で経済的な地盤設計を進める
- 歩道橋建設計画の事業化調査を受注し、「プロジェクト提案書作成」、「各段階の調査業務作成」、また、「建設や設計課題の検討及び基本設計を含む実現可能性調査報告書の作成」を行う



人・夢・技術グループ株式会社

30

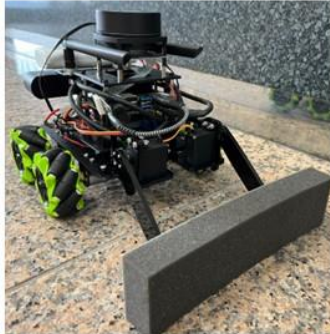
それから、ここ何年か新型コロナの影響で海外の事業も少し停滞したところがありますが、やっと少しずつまた動き出しております。左側はシンガポールでの基礎地盤コンサルタンツが行っております設計業務、右側はこれから長大がベトナムの現地法人と一緒にやっていこうとしております、新しいベトナムでの歩道橋の建設計画というものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



⑧ グループ内の業務効率化や地域全体、社会全体のDXに向けた取り組みを拡大



自動巡回ロボット(エフェクト)

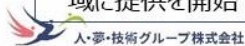


グループ内DXの推進(ニックス)



「マイクロデータセンター」の提供(人夢技術)

- タイヤメーカーが課題としていたごみを定期巡回により自動収集・破棄するロボットを試作、検証を実施
- これまでのノウハウを生かし、長年のコンテンツクラウド導入支援を行うことで社内の業務効率化に貢献
- AI開発や量子計算用サーバーの設置・運用を小スペースで実現する「マイクロデータセンター」を開発し、地域に提供を開始



人・夢・技術グループ株式会社

31

これが最後になりますけれども、やはり IT 化。せっかく人・夢・技術グループにはニックス、それからエフェクトという IT 技術に特化した会社さんに入らせていただいておりますので、そういう会社さんと一緒になってこれからもこういう IT 化、DX 推進というものに取り組んでいきたいと考えております。

それから、右側の写真は先ほどの四つの新事業ありました量子コンピュータのマイクロデータセンター、こういうものを作って、その大規模なものでもなくとも、地域にこういうものを造っていけば量子コンピュータっていうものを動かしていけるということで、今後も新事業を進めて参ります。

以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会 [M]：ご説明ありがとうございました。それではこれより質疑応答に移らせていただきます。会場にお越しの方でご質問のある方は、挙手をお願いいたします。Zoomでご参加の方は、コントロールパネルのQAからご入力をお願いします。

なお、本説明会は質疑応答部分も含め、全文書き起こして公開する予定です。従いまして、質問の際に会社名、氏名を名乗られますと、そのまま公開されますので、匿名を希望される場合は、この点ご留意をお願いいたします。Zoomでご参加の方につきましては、お名前は読み上げません。

それではまず、会場のほうからご質問をお受けさせていただきたいと思います。ご質問のある方は挙手のほうをお願いいたします。

お願いいたします。

フダ [Q]：建設通信新聞のフダです。今日のご説明ありがとうございます。2点ほどお聞きしたいことがございます。

まず、有資格者数の推移の中で、23年9月期にグループとして初めて1,000人超えてるのかなと思うんですが、これもし前に計画発表されてたら確認になってしましますが、この中期経営計画あるいはビジョンの中で、有資格者数をどのぐらいまで伸ばしていきたいと設定されてるのかというのが一つ。

あと、新規事業の進捗の中のデジタル田園都市のお話で、今期2億円程度の受注が見込まれるということでしたが、これも同じく中計あるいはビジョンの中で今後どの程度拡大を見込まれているのか、もし数値的なものがあれば教えてください。

以上です。お願いします。

塩釜 [A]：有資格者の目標ということでございますが。数値的には、中計もしくは長期計画の中で明確に何名ということは、公表しておりません。

ただし、これは毎年各社、長大であったり基礎地盤であったり、大体、例えば技術者10名、20名と、目標を持って、受ける人を決めて、研修を行い、しっかりマネジメントしながら進めているものであって、数値は結果的なものもあります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



もう一つ言えるのは、技術士は最近どんどん若い人たちが受けて合格するようになってきております。将来的には、少しでもその比を増やしていくことに注力しているところでございます。

次に新しい事業部の売上 2 億と将来的な事業拡大についてですね。

これは、数値的にはざっくりとしたものを持っておりますが、これに限らず、ここでは新しい事業が空飛ぶクルマだとか、量子とかある中で、デジタル田園都市構想単体でいくらってというのは、公表は難しいと思っております。

といいますのは、可能な限り増やしていきたいのですが、先ほどのとおり人の関係、新しい技術の関係もでございます。ただし今期が例えば 2 億であれば、来期はその 1.5 倍にするのか 2 倍にするのかは状況に応じて適正に増やしていきたいと考えております。また、ゆくゆくはこれ大きな事業軸の一つにしたいと思っております。

司会 [M]：ご回答ありがとうございました。会場のほうから、お願いいたします。

マキノ [Q]：建設工業新聞、マキノと申します。今日はどうもありがとうございます。

私も 2 点ほど質問があります。一つは公共事業一辺倒じゃない事業展開ってところで、量子コンピュータのマイクロデータセンターの提供を始めたということでしたが、これは具体的にどういう実績があって、今後の定量的にどれぐらいの設置箇所数ですとか、売上ですとか、もちろん運用しながらのサービスみたいな形で得られるところもあるのかもしれませんが、その目標があれば教えていただけますか。

永治 [A]：このマイクロデータセンター、まだ 1 ヶ所しか稼働しておりません。今後実際に少し使ってみて課題があるかないか、実際にオープンしていろんな方に使ってもらうための実験期間中という位置付けで今日現在はいます。

ただ、グループ会社のエフェクト等が試験的に使ってるんですけども、大変高速処理ができており、今のところ問題は起きてないので、これを展開していこうと思っております。

実際に先ほど少し申し上げましたように、県名は伏せさせていただきますが、ぜひともというところが数件あります。マイクロデータセンターだったら造るスペースはあるうちに置いてほしいという話を受けています。

この量子コンピュータのいいところはやっぱり高速性ですから、通信環境次第でせっかくの高速処理したものが遠くまで途中途中で、中継しながらだとその効果が薄れてしまいますので、われわれ狙ってるのは、投資する費用面もそうですけれども、マイクロデータセンターという形で複数箇

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



所、多数置いていったほうが効率いいだろうと考えております。そういったことで各自治体さんに紹介をしているところです。その中でぜひ実現してほしいというふうに言われているという状況です。

マキノ [Q]：ありがとうございます。あともう一つは、今回追加で、そろそろ中計の折り返し時期ということで、M&A についてです。この間も様々な分野で M&A をされてると思いますが、具体的にはあまり言えないと思いますが、今中計中で狙ってるところや分野があれば教えてください。

永治 [A]：狙ってるところはいっぱいありますが、なかなかこちらの都合だけではいけないのが M&A です。できれば、やはりわれわれの弱いところ、一つは地域的に弱いところ、それからもう一つは事業分野として弱いところ。例えば、事業は行っていますが、港湾事業だとかトンネルの分野などはまだまだ伸びしろがあるし、それをやっていかないとと思っています。そういう分野だとか、地域的にいうと北陸のほうは、われわれは受注が少ないということがあります。

それからやはり海外でちゃんと腰を据えてやる。ということは、現地にそのような技術者を養成して現地パートナーと一緒にやっていくっていう姿をつくっていかないといけないと思っていますので、これからは、海外企業も含めた M&A をしていく必要があると思っています。

マキノ [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：ご質問ありがとうございます。会場のほうから、まだご質問がございましたら、挙手のほうをお願いいたします。

ほかに質問がないようですので、Zoom のほうからいただいている質問を 2 点いただいていますので、読み上げさせていただきます。

質問者 [Q]：まず 1 問目が、円安が進行しているが業績への影響はございますでしょうか、という質問になります。よろしくをお願いいたします。

永治 [A]：ゼロではないです。ありますが、海外案件については、ほとんどが円建てで契約しますので、ほとんど為替の影響はありません。ただ、国内事業を進める上で、特に PFI 事業などわれわれが事業者となる事業について、材料費の高騰からの影響を受けてます。その結果、やはり収益性に問題が出てくることもありますので、そのような場合には事業計画を見直すというようなことで、対応しております。

司会 [M]：ありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質問者 [Q]：では続きまして、前期に2社 M&A を行っていらっしゃると思いますが、そのシナジー効果などは受注、売上に反映されてきていますでしょうか。ご回答お願いいたします。

塩釜 [A]：ご質問ありがとうございます。前期2社、ピーシーレールウェイコンサルタント、それからニックスという会社を M&A させていただきました。先ほどご質問ありましたとおり、中計では M&A をざっと40億想定している中で、この2社ですでに半分以上の進捗となります。そういう意味では順調に進んでいます。

シナジーですけれども、ピーシーレールウェイに関しましては鉄道部門が強く、海外の鉄道事業を展開していくために、元々あった長大の海外事業本部といい連携をとりながら受注活動を行っているところです。また実際にその売上と利益に関しましても、このピーシーレールウェイには貢献いただいております。

あともう一つ、ニックス社でございます。これはITの会社でございます、この会社につきましても、私達が今まで対応していなかった広く民間のお客様に対するIT事業を展開しております。ここもピーシーレールウェイと同じく売上と営業利益面において、非常に貢献いただいているところでございます。

引き続き、このような M&A をぜひ進めていきたいと思っております。

司会 [M]：ありがとうございます。もう1点、Zoomで質問を受けておりますので、読み上げさせていただきます。

質問者 [Q]：国交省の3月からの設計業務委託単価は上昇しておりますが、その影響は下期からプラスに働いてくるのでしょうか、というご質問になります。お願いいたします。

永治 [A]：ありがとうございます。設計単価は毎年、国交省さんに見直していただいております。特に大手の各企業さんは、3%以上の賃上げしなさいということがあります。そういうこともあり、今年も設計単価上昇しております、ある意味、一つの業務をこなすときの受注額は増えます。そういう意味ではいい結果になりますが、一方で、国交省さんの総額の予算が決まっておりますので、設計単価が上がるということは件数が減るという方向にいつてしまいます。そういうことでいうと、どれだけ私どものグループで受注できるかというところが今後、重要なところになります。

なおかつ今、国交省さんの場合には特にプロポーザル方式、あるいは総合評価方式ということで技術点の評価が入ります。この技術点の評価にはテクリス点という、ここ数年の技術者の持ち点が評価点の一つになります。そういうことになると、やっぱり継続教育をして継続的に点数を上げる、あるいは高い点数を維持するということが必要になります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



そういうことを今やりつつ、受注できるように努力しているという状況でございますので、単純に単価が上がったから利益が増えるということでは残念ながらありません。

以上です。

司会 [M]：ありがとうございます。そろそろお時間もまいりましたので、この辺りで質疑応答を終わらせていただきます。

それでは、以上をもちまして、人・夢・技術グループ株式会社 2024 年 9 月期第 2 四半期決算説明会を終了いたします。

なお、冒頭でも申し上げましたが、アンケートへのご協力をお願いいたします。会場にお越しの方は、会場出入口にてアンケートを回収させていただきます。Zoom でご参加の方は、このあと画面が切り替わり、アンケート画面が表示されます。

ご質問、個別面談のお申し込みにつきましては、本日のご説明資料の最後のページに記載されております電話番号、もしくはメールアドレスにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

それでは、これにて閉会いたします。本日はお忙しいところお越しいただき、またご視聴いただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとしします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとしします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

